

第 61 回 立川市民文化祭

文化とやさしさのあるまちづくり ～より広くより高く～

第 31 回 立川おはやし大会

2018 年 11 月 3 日(土)文化の日

9:30 開場/10:00 開会/15:00 閉会

入場無料



主催 立川市文化協会

共催 立川市

立川市教育委員会

(公財)立川市地域文化振興財団

主管 立川おはやし保存会

<http://www.ohayashi.org>

10:00 ~ 10:15 開会式

- 10:15 ~ 10:30 中里神明囃子連
- 10:30 ~ 10:45 殿ヶ谷十二支はやし連
- 10:45 ~ 11:00 錦東会はやし連
- 11:00 ~ 11:15 五月はやし連
- 11:15 ~ 11:30 曙子どもはやし連
- 11:30 ~ 11:45 曙東はやし連
- 11:45 ~ 12:00 立川錦囃子連

12:00 ~ 13:00 昼休憩

- 13:00 ~ 13:15 柴一はやし保存会
- 13:15 ~ 13:30 錦みよし会はやし連

13:30 ~ 13:50 特別出演
あきる野市五日市 榮町囃子連 (神田流)

13:50 ~ 14:00 休憩

- 14:00 ~ 14:15 高松町お囃子保存会
- 14:15 ~ 14:30 立川羽三囃子連
- 14:30 ~ 14:45 諏訪はやし連

14:45 ~ 15:00 閉会式



たましんRISRURUホール
(立川市市民会館/立川市錦町 3-3-20)

小ホール

特別出演 あきる野市五日市

榮町囃子連

榮町囃子連は、今から約 100 年前に留原から隣の上町に移り住んで来た、市倉熊次郎さんからお囃子を習ったことが始まりと伝わっています。その頃は、五日市字番場地内の尋常小学校の子供たちがお囃子を行ったため「番場子供囃子」と呼ばれていた様です。この名残として、半纏の背中に番場と染めております。

また、昭和初期には、お囃子やお祭好きの若者が「睦会」を作り、お囃子はもとより阿伎留神社のお神輿担ぎや、夏の清流秋川では、地元のお千淵や小能淵で灯ろう流しや花火なども行っていたようです。昭和 12 年には小字の番場や小能、茂かりの地域を「榮町」と名づけたと言われています。昭和 20 年の戦後には、お囃子やお神輿担ぎをする者たちを「お祭青年」と呼んでいた頃もありました。高度成長期の昭和 3、40 年頃には、「榮会」と呼ぶようになり現在に引き継がれています。榮会で特にお囃子をする者たちを「榮町囃子連」として活動をしています。

囃子連では、元旦に町内を山車で回り新年をお祝いすることや、年によっては阿伎留神社神楽殿で節分祭や水無月祓で奉納囃子を行っています。そして、9月 28、29、30 日には、六角神輿で知られる阿伎留神社の例大祭をお囃子で賑やかにするため、毎週木曜日に練習を行っています。近年は、町内の男衆だけでなく、子供やお母さんたちも加わり、また、町外からも参加される方も増えて行事を通じての親睦を深めながら伝統芸能を継承しています。

